

0 150 cm 10 20 30

拾遺愚草抄出園書

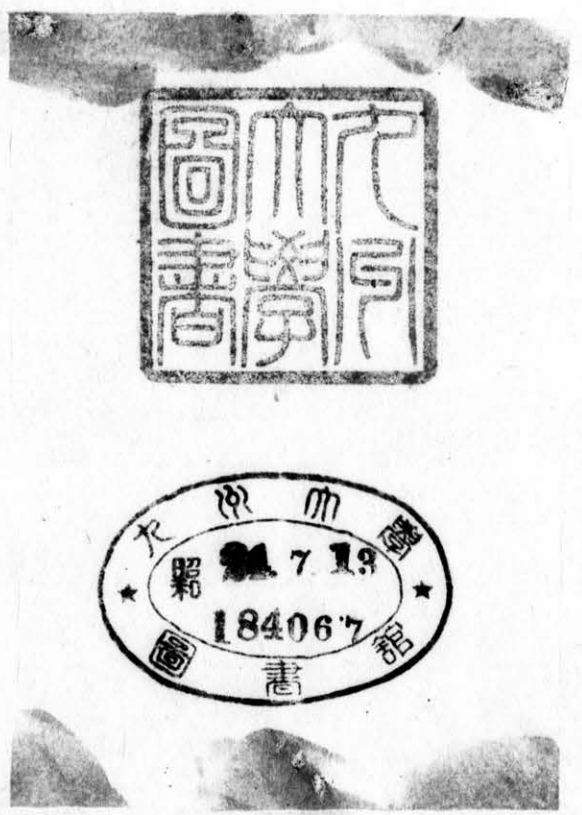
543
シ
40

543
シ
40

拾遺愚草抄出陣書

春

何事あはれむとて思ふに
年即ちしるる月日とて
一二月は月の初め
ふりしるる月日とて
ついでしるる月日とて
冬はしるる月日とて
春はしるる月日とて
夏はしるる月日とて
秋はしるる月日とて
乃爾の書一とて
ついでしるる月日とて



あつらひのまじりてはなれぬものぞ
こゝろのまじりてはなれぬものぞ

成流のまじりてはなれぬものぞ
名残のまじりてはなれぬものぞ
こゝろのまじりてはなれぬものぞ

伊勢のまじりてはなれぬものぞ
道にまじりてはなれぬものぞ
こゝろのまじりてはなれぬものぞ

なつかしき

花のまじりてはなれぬものぞ
こゝろのまじりてはなれぬものぞ
こゝろのまじりてはなれぬものぞ

酒院のまじりてはなれぬものぞ
こゝろのまじりてはなれぬものぞ
こゝろのまじりてはなれぬものぞ
こゝろのまじりてはなれぬものぞ
こゝろのまじりてはなれぬものぞ
こゝろのまじりてはなれぬものぞ

房の紅葉のころは昔ながらの光景をみることが出来る

ふりかざすようにしての紅葉は、いよいよ秋の深まりを感じさせる
を思ふに、この春の指のほろりとした感じは、

ふりかざすようにしての紅葉は、いよいよ秋の深まりを感じさせる
を思ふに、この春の指のほろりとした感じは、

ふりかざすようにしての紅葉は、いよいよ秋の深まりを感じさせる
を思ふに、この春の指のほろりとした感じは、

ふりかざすようにしての紅葉は、いよいよ秋の深まりを感じさせる
を思ふに、この春の指のほろりとした感じは、

春の朝の光を待つ花のつぼみ

春の朝の光を待つ花のつぼみ

春の朝の光を待つ花のつぼみ

春の朝の光を待つ花のつぼみ

春の朝の光を待つ花のつぼみ

春の朝の光を待つ花のつぼみ

春の朝の光を待つ花のつぼみ

春の朝の光を待つ花のつぼみ

春の朝の光を待つ花のつぼみ

春の朝の光を待つ花のつぼみ

春の朝の光を待つ花のつぼみ

春の朝の光を待つ花のつぼみ

春の朝の光を待つ花のつぼみ

春の朝の光を待つ花のつぼみ

春の朝の光を待つ花のつぼみ

春の朝の光を待つ花のつぼみ

春の朝の光を待つ花のつぼみ

春の朝の光を待つ花のつぼみ

春の朝の光を待つ花のつぼみ

春の朝の光を待つ花のつぼみ

春の朝の光を待つ花のつぼみ

春の朝の光を待つ花のつぼみ

春の朝の光を待つ花のつぼみ

春の朝の光を待つ花のつぼみ

お見人家花魁に
柳のさし花の
昔より花の色は
今も人の心は
あつた心は
なつかしき
お見人家花魁に

お見人家花魁に
柳のさし花の
昔より花の色は
今も人の心は
あつた心は
なつかしき
お見人家花魁に

お見人家花魁に
柳のさし花の
昔より花の色は
今も人の心は
あつた心は
なつかしき
お見人家花魁に

Handwritten text in a cursive script, likely a letter or a page from a manuscript. The text is written in a fluid, connected style. It begins with a large initial letter, possibly 'S' or 'S', followed by several lines of text. The script is dense and fills most of the page.

Handwritten text in a cursive script, similar to the one on the opposite page. It also begins with a large initial letter, possibly 'S' or 'S', and continues with several lines of text. The script is consistent with the one on the other page, suggesting it is part of the same document or a similar style.

おつてこゝろをうらみおつて秋萩の枝をよみては
ほろほろゆきいふる付をよみてしりたうけあゝね
あつてこゝろをうらみおつて秋萩の枝をよみては
ほろほろゆきいふる付をよみてしりたうけあゝね
あつてこゝろをうらみおつて秋萩の枝をよみては
ほろほろゆきいふる付をよみてしりたうけあゝね

おつてこゝろをうらみおつて秋萩の枝をよみては
ほろほろゆきいふる付をよみてしりたうけあゝね
あつてこゝろをうらみおつて秋萩の枝をよみては
ほろほろゆきいふる付をよみてしりたうけあゝね
あつてこゝろをうらみおつて秋萩の枝をよみては
ほろほろゆきいふる付をよみてしりたうけあゝね

おつてこゝろをうらみおつて秋萩の枝をよみては
ほろほろゆきいふる付をよみてしりたうけあゝね
あつてこゝろをうらみおつて秋萩の枝をよみては
ほろほろゆきいふる付をよみてしりたうけあゝね
あつてこゝろをうらみおつて秋萩の枝をよみては
ほろほろゆきいふる付をよみてしりたうけあゝね

わがまの心持はかゝるにあらざらん
いかにせんかたじけなくも
かゝる草の心持はかゝるにあらざらん

昔の心持はかゝるにあらざらん
かゝる心持はかゝるにあらざらん
かゝる心持はかゝるにあらざらん

かゝる心持はかゝるにあらざらん
かゝる心持はかゝるにあらざらん
かゝる心持はかゝるにあらざらん

かゝる心持はかゝるにあらざらん

かゝる心持はかゝるにあらざらん
かゝる心持はかゝるにあらざらん
かゝる心持はかゝるにあらざらん
かゝる心持はかゝるにあらざらん
かゝる心持はかゝるにあらざらん
かゝる心持はかゝるにあらざらん
かゝる心持はかゝるにあらざらん
かゝる心持はかゝるにあらざらん
かゝる心持はかゝるにあらざらん
かゝる心持はかゝるにあらざらん

かゝる心持はかゝるにあらざらん
かゝる心持はかゝるにあらざらん

牡丹の流し集ふ

春の流し集ふ牡丹の花
一葉舞時如紅の文ありし花ありし
多し方の集ふ牡丹の花

あはれ牡丹の花も牡丹の花
紫花牡丹秋已近展星早没初長牡丹の
牡丹の花も牡丹の花

あはれ牡丹の花も牡丹の花
牡丹の花も牡丹の花

牡丹の花

あはれ牡丹の花も牡丹の花
牡丹の花も牡丹の花

あはれ牡丹の花も牡丹の花
牡丹の花も牡丹の花

あはれ牡丹の花も牡丹の花
牡丹の花も牡丹の花

ついでに花をいじりてしるす

流るるにけりてあはれなるをいじりてしるす

はゆふと定むる水のかたは花をいじりてしるす

石胸の種をいじりてしるす

かゝる事なれば

あや草の葉の影をいじりてしるす

いづれにいづれにいづれに

いづれにいづれにいづれに

いづれに

あや草の葉の影をいじりてしるす

花の葉の影をいじりてしるす

あや草の葉の影をいじりてしるす

あや草の葉の影をいじりてしるす

あや草の葉の影をいじりてしるす

あや草の葉の影をいじりてしるす

あや草の葉の影をいじりてしるす

あや草の葉の影をいじりてしるす

あや草の葉の影をいじりてしるす

あや草の葉の影をいじりてしるす

あや草の葉の影をいじりてしるす

あや草の葉の影をいじりてしるす

秋

あや草の葉の影をいじりてしるす

我が秋の夕ぐれの感懐は花のからよをよみわたり
〜
月も空もいふなきはくさくさのさかすかに
あふれ秋の夕ぐれはあはれなりとていふは
ありては花の夕ぐれは秋の夕ぐれは花の夕ぐれ
よもいふはくさくさのさかすかに
月も空もいふなきはくさくさのさかすかに
あふれ秋の夕ぐれはあはれなりとていふは
ありては花の夕ぐれは秋の夕ぐれは花の夕ぐれ

〜
あつた九月をたれど秋の夕ぐれはあはれなりと
あつた九月をたれど秋の夕ぐれはあはれなりと
あつた九月をたれど秋の夕ぐれはあはれなりと
あつた九月をたれど秋の夕ぐれはあはれなりと

〜
あつた九月をたれど秋の夕ぐれはあはれなりと
あつた九月をたれど秋の夕ぐれはあはれなりと
あつた九月をたれど秋の夕ぐれはあはれなりと
あつた九月をたれど秋の夕ぐれはあはれなりと

〜
あつた九月をたれど秋の夕ぐれはあはれなりと
あつた九月をたれど秋の夕ぐれはあはれなりと
あつた九月をたれど秋の夕ぐれはあはれなりと
あつた九月をたれど秋の夕ぐれはあはれなりと

らるる

をいふ一もは昔のこころあはしむるを
秋のころ草木のまじりていふを
こころのまじりていふ

春の海の水を煮ていふは又秋のころ
をいふは春のころいふは秋のころ
秋のころいふは春のころいふは秋のころ
秋のころいふは春のころいふは秋のころ
秋のころいふは春のころいふは秋のころ

秋のころいふは春のころいふは秋のころ
秋のころいふは春のころいふは秋のころ
秋のころいふは春のころいふは秋のころ

秋のころいふは春のころいふは秋のころ
秋のころいふは春のころいふは秋のころ

秋のころいふは春のころいふは秋のころ
秋のころいふは春のころいふは秋のころ
秋のころいふは春のころいふは秋のころ

秋のころいふは春のころいふは秋のころ
秋のころいふは春のころいふは秋のころ
秋のころいふは春のころいふは秋のころ

秋のころいふは春のころいふは秋のころ
秋のころいふは春のころいふは秋のころ
秋のころいふは春のころいふは秋のころ

Handwritten text in a cursive script, likely a letter or a page from a manuscript. The text is written in a fluid, connected style across approximately 12 lines.

Handwritten text in a cursive script, likely a letter or a page from a manuscript. The text is written in a fluid, connected style across approximately 12 lines. In the middle of the page, there is a section of text written in Chinese characters: 东航西航稍各言只说边是结月白付尔.

いぬのまがら

いぬのまがら
梢の影をよみわたる月影のまがら
——いぬのまがら
いぬのまがら

いぬのまがら
いぬのまがら
いぬのまがら

いぬのまがら
いぬのまがら
いぬのまがら

いぬのまがら

いぬのまがら
いぬのまがら
いぬのまがら

いぬのまがら
いぬのまがら
いぬのまがら

いぬのまがら
いぬのまがら
いぬのまがら

従来よりいふやうなるありては後やも我

とさして

くけしき草のふゆことぢんじゆあまこがし船ふるえ
すまふあまのあまのふゆことぢんじゆあまこがし
きり舟のあまのふゆことぢんじゆあまこがし
るふゆことぢんじゆあまのふゆことぢんじゆあまこがし
ふゆことぢんじゆあまのふゆことぢんじゆあまこがし

松信のふゆことぢんじゆあまのふゆことぢんじゆあまこがし
たあつぬいはにあらしんまのきき
まのふゆことぢんじゆあまのふゆことぢんじゆあまこがし
きつおこさるやれあしらの草のあまのふゆことぢんじゆあまこがし
とまたんらあまのふゆことぢんじゆあまのふゆことぢんじゆあまこがし

たつたふゆことぢんじゆあまのふゆことぢんじゆあまこがし
うて京山傳の首都のこつらあまのふゆことぢんじゆあまこがし
のふゆことぢんじゆあまのふゆことぢんじゆあまこがし
つあのかにおれまふらあまのふゆことぢんじゆあまこがし
なまのふゆことぢんじゆあまのふゆことぢんじゆあまこがし
あまのふゆことぢんじゆあまのふゆことぢんじゆあまこがし
あまのふゆことぢんじゆあまのふゆことぢんじゆあまこがし

あまのふゆことぢんじゆあまのふゆことぢんじゆあまこがし
あまのふゆことぢんじゆあまのふゆことぢんじゆあまこがし
あまのふゆことぢんじゆあまのふゆことぢんじゆあまこがし
あまのふゆことぢんじゆあまのふゆことぢんじゆあまこがし
あまのふゆことぢんじゆあまのふゆことぢんじゆあまこがし

養火遠寒^遠をこころ詩の心にあはらうかへらう
こころ

あけがたをたれまうの野路のまをなすかあう
東海は船もつゆたをたれまうの路もむも
年あまのまをたれまうの路もむも
う(あまのまをたれまう)

あまのまをたれまうの路もむも
中草まのまをたれまうの路もむも
のまをたれまうの路もむも
はるまのまをたれまう

まのまをたれまうの路もむも
まのまをたれまうの路もむも
まのまをたれまうの路もむも

あまのまをたれまうの路もむも
帯のまをたれまうの路もむも
なまのまをたれまうの路もむも
向あま

あまのまをたれまうの路もむも
あまのまをたれまうの路もむも
あまのまをたれまうの路もむも
あまのまをたれまうの路もむも
あまのまをたれまうの路もむも
あまのまをたれまうの路もむも

おのれをいふは月をいふに似たり
よき花のうらみ

あはれに思ふは花のうらみ
あはれに思ふは花のうらみ
あはれに思ふは花のうらみ
あはれに思ふは花のうらみ

昔は花のうらみは花のうらみ
上陽人の花のうらみは花のうらみ
あはれに思ふは花のうらみ
あはれに思ふは花のうらみ

花のうらみは花のうらみ
花のうらみは花のうらみ
花のうらみは花のうらみ
花のうらみは花のうらみ

あはれに思ふは花のうらみ

あはれに思ふは花のうらみ
あはれに思ふは花のうらみ
あはれに思ふは花のうらみ
あはれに思ふは花のうらみ

あはれに思ふは花のうらみ
あはれに思ふは花のうらみ
あはれに思ふは花のうらみ
あはれに思ふは花のうらみ

あはれに思ふは花のうらみ
あはれに思ふは花のうらみ
あはれに思ふは花のうらみ
あはれに思ふは花のうらみ

あはれに思ふは花のうらみ
あはれに思ふは花のうらみ
あはれに思ふは花のうらみ
あはれに思ふは花のうらみ

おのれをいふはまことしむるは
おのれをいふはまことしむるは

おのれをいふはまことしむるは
おのれをいふはまことしむるは
おのれをいふはまことしむるは

おのれをいふはまことしむるは
おのれをいふはまことしむるは
おのれをいふはまことしむるは

おのれをいふはまことしむるは
おのれをいふはまことしむるは

おのれをいふはまことしむるは

おのれをいふはまことしむるは
おのれをいふはまことしむるは

おのれをいふはまことしむるは
おのれをいふはまことしむるは

おのれをいふはまことしむるは
おのれをいふはまことしむるは
おのれをいふはまことしむるは

おのれをいふはまことしむるは

物あはれしうしとさし人のあはれをいふこと
いふことあり

あきたるあはれしうとさし人のあはれをいふこと
あはれしうとさし人のあはれをいふこと
あはれしうとさし人のあはれをいふこと

あはれしうとさし人のあはれをいふこと
あはれしうとさし人のあはれをいふこと
あはれしうとさし人のあはれをいふこと
あはれしうとさし人のあはれをいふこと

あはれしうとさし人のあはれをいふこと

あはれしうとさし人のあはれをいふこと

あはれしうとさし人のあはれをいふこと
あはれしうとさし人のあはれをいふこと
あはれしうとさし人のあはれをいふこと

あはれしうとさし人のあはれをいふこと
あはれしうとさし人のあはれをいふこと
あはれしうとさし人のあはれをいふこと

あはれしうとさし人のあはれをいふこと
あはれしうとさし人のあはれをいふこと
あはれしうとさし人のあはれをいふこと

あはれしうとさし人のあはれをいふこと

桂のこもふりうの衣をれし月のあかるくは日
のつらふもつらふりうありてつらふら
きし海はよ由妙れ衣うの桂のこもつら
河のよせあや

こころふかむの袖も抱えしは衣の桂のこも
こころもあつと袖も抱えしは衣の桂のこも
桂のこもあつと袖も抱えしは衣の桂のこも
こころもあつと袖も抱えしは衣の桂のこも
桂のこもあつと袖も抱えしは衣の桂のこも
こころもあつと袖も抱えしは衣の桂のこも
桂のこもあつと袖も抱えしは衣の桂のこも
こころもあつと袖も抱えしは衣の桂のこも

あつと袖も抱えしは衣の桂のこも
こころもあつと袖も抱えしは衣の桂のこも
桂のこもあつと袖も抱えしは衣の桂のこも
こころもあつと袖も抱えしは衣の桂のこも
桂のこもあつと袖も抱えしは衣の桂のこも
こころもあつと袖も抱えしは衣の桂のこも
桂のこもあつと袖も抱えしは衣の桂のこも
こころもあつと袖も抱えしは衣の桂のこも

桂のこころはうらをなれし月のみあるを月
のうつらうつらうつらうつらうつらうつらうつら
きし海をよゆゆれなむ桂のこころを
河せよをかせ

こころをなむ桂のこころをなむ桂のこころを
こころをなむ桂のこころをなむ桂のこころを
桂のこころをなむ桂のこころをなむ桂のこころを
こころをなむ桂のこころをなむ桂のこころを
桂のこころをなむ桂のこころをなむ桂のこころを
こころをなむ桂のこころをなむ桂のこころを
桂のこころをなむ桂のこころをなむ桂のこころを
こころをなむ桂のこころをなむ桂のこころを

こころをなむ桂のこころをなむ桂のこころを
桂のこころをなむ桂のこころをなむ桂のこころを
こころをなむ桂のこころをなむ桂のこころを
桂のこころをなむ桂のこころをなむ桂のこころを
こころをなむ桂のこころをなむ桂のこころを
桂のこころをなむ桂のこころをなむ桂のこころを
こころをなむ桂のこころをなむ桂のこころを
桂のこころをなむ桂のこころをなむ桂のこころを
こころをなむ桂のこころをなむ桂のこころを

夕暮海成りの月影あけりしそらに霞人の影人

日か暮りしそらに霞人の影人
月影あけりしそらに霞人の影人
夕暮海成りの月影あけりしそらに霞人の影人

暇人なむかして思ひじつと昔も海人の影人
待しを暇もししと昔も海人の影人

心もなむかして思ひじつと昔も海人の影人
夕暮海成りの月影あけりしそらに霞人の影人

夕暮海成りの月影あけりしそらに霞人の影人
日か暮りしそらに霞人の影人
月影あけりしそらに霞人の影人
夕暮海成りの月影あけりしそらに霞人の影人

夕暮海成りの月影あけりしそらに霞人の影人

夕暮海成りの月影あけりしそらに霞人の影人
日か暮りしそらに霞人の影人
月影あけりしそらに霞人の影人

夕暮海成りの月影あけりしそらに霞人の影人
日か暮りしそらに霞人の影人
月影あけりしそらに霞人の影人

夕暮海成りの月影あけりしそらに霞人の影人
日か暮りしそらに霞人の影人
月影あけりしそらに霞人の影人

都よしの月影あけりしそらに霞人の影人

この書は、
その内容が、
非常に興味深い。
その理由を、
以下に述べる。
この書は、
その内容が、
非常に興味深い。
その理由を、
以下に述べる。
この書は、
その内容が、
非常に興味深い。
その理由を、
以下に述べる。

この書は、
その内容が、
非常に興味深い。
その理由を、
以下に述べる。
この書は、
その内容が、
非常に興味深い。
その理由を、
以下に述べる。
この書は、
その内容が、
非常に興味深い。
その理由を、
以下に述べる。

毎日の生活の習慣を記す
海に面した町に暮らす
朝の光景を眺める
静かな夜の静けさ

山を登る楽しさ
水辺の風景を愛する
自然の恵みに感謝
日々の生活を楽しむ
心豊かな暮らしを
目指す

毎日の生活の習慣を記す

十方佛土中以西方為願極乐的先日月を
以て先ずいふべきなりと念珠のいふや

静かな夜の静けさ
朝の光景を眺める
海に面した町に暮らす
山を登る楽しさ

水辺の風景を愛する
自然の恵みに感謝
日々の生活を楽しむ
心豊かな暮らしを
目指す

Handwritten text in cursive script, likely a list or notes. The text is written vertically and includes several lines of characters.

Handwritten text in cursive script, continuing the notes or list. It includes a section that appears to be a title or a specific entry.

を

Handwritten text in cursive script, starting with a large character that could be '冬' (winter).

Handwritten text in cursive script, continuing the notes. It includes several lines of characters, some of which are more densely packed.

Handwritten text in cursive script, concluding the notes. It includes several lines of characters, ending with a large character that could be '初' (beginning).

Handwritten text in cursive script, likely a letter or a list of names. The text is written vertically on the right page of the notebook.

Handwritten text in cursive script, likely a letter or a list of names. The text is written vertically on the left page of the notebook.

ちかみしあひのよ梅花

しんせいのまじりしんせいのまじり

まじりしんせいのまじりしんせいのまじり

しんせいのまじりしんせいのまじりしんせいのまじり

しんせいのまじりしんせいのまじりしんせいのまじり

しんせいのまじりしんせいのまじりしんせいのまじり

しんせいのまじりしんせいのまじりしんせいのまじり

しんせいのまじりしんせいのまじりしんせいのまじり

しんせいのまじりしんせいのまじりしんせいのまじり

しんせいのまじりしんせいのまじりしんせいのまじり

しんせいのまじりしんせいのまじりしんせいのまじり

あふたひ

しんせいのまじりしんせいのまじりしんせいのまじり

しんせいのまじりしんせいのまじりしんせいのまじり

しんせいのまじりしんせいのまじりしんせいのまじり

しんせいのまじりしんせいのまじりしんせいのまじり

しんせいのまじりしんせいのまじりしんせいのまじり

しんせいのまじりしんせいのまじりしんせいのまじり

しんせいのまじりしんせいのまじりしんせいのまじり

しんせいのまじりしんせいのまじりしんせいのまじり

しんせいのまじりしんせいのまじりしんせいのまじり

あふたひ

今も昔も同じく世に生かされてゆく

昔も今も同じく世に生かされてゆく

昔も今も同じく世に生かされてゆく

昔も今も同じく世に生かされてゆく

昔も今も同じく世に生かされてゆく

昔も今も同じく世に生かされてゆく

昔も今も同じく世に生かされてゆく

昔も今も同じく世に生かされてゆく

昔も今も同じく世に生かされてゆく

昔も今も同じく世に生かされてゆく

昔も今も同じく世に生かされてゆく

昔も今も同じく世に生かされてゆく

昔も今も同じく世に生かされてゆく

昔も今も同じく世に生かされてゆく

昔も今も同じく世に生かされてゆく

昔も今も同じく世に生かされてゆく

昔も今も同じく世に生かされてゆく

昔も今も同じく世に生かされてゆく

昔も今も同じく世に生かされてゆく

昔も今も同じく世に生かされてゆく

昔も今も同じく世に生かされてゆく

昔も今も同じく世に生かされてゆく

昔も今も同じく世に生かされてゆく

昔も今も同じく世に生かされてゆく

その草花の葉の裏に
たのしみながら
らねばならぬ
その草花の葉の裏に
たのしみながら
らねばならぬ
その草花の葉の裏に
たのしみながら
らねばならぬ
その草花の葉の裏に
たのしみながら
らねばならぬ

その草花の葉の裏に
たのしみながら
らねばならぬ
その草花の葉の裏に
たのしみながら
らねばならぬ
その草花の葉の裏に
たのしみながら
らねばならぬ
その草花の葉の裏に
たのしみながら
らねばならぬ
その草花の葉の裏に
たのしみながら
らねばならぬ

Handwritten text at the top of the right page.

Handwritten text in the upper middle section of the right page.

Handwritten text in the middle section of the right page.

Handwritten text in the lower middle section of the right page.

Handwritten text at the bottom of the right page.

Handwritten text at the top of the left page.

Handwritten text in the upper middle section of the left page.

Handwritten text in the middle section of the left page.

Handwritten text in the lower middle section of the left page.

Handwritten text in the bottom middle section of the left page.

Handwritten text at the bottom of the left page.

東洋の諸島に在る諸島の事
諸島は皆南緯に在りて北緯に在らざる事
諸島の形は皆長方形に似たり
諸島の数は皆十の倍数に在り
諸島の面積は皆十の倍数に在り
諸島の人口は皆十の倍数に在り
諸島の言語は皆南緯に在り
諸島の風土は皆南緯に在り
諸島の物産は皆南緯に在り
諸島の文化は皆南緯に在り
諸島の歴史は皆南緯に在り
諸島の地理は皆南緯に在り
諸島の政治は皆南緯に在り
諸島の経済は皆南緯に在り
諸島の社会は皆南緯に在り
諸島の宗教は皆南緯に在り
諸島の法律は皆南緯に在り
諸島の教育は皆南緯に在り
諸島の科学は皆南緯に在り
諸島の藝術は皆南緯に在り
諸島の文学は皆南緯に在り
諸島の音楽は皆南緯に在り
諸島の美術は皆南緯に在り
諸島の建築は皆南緯に在り
諸島の工芸は皆南緯に在り
諸島の農業は皆南緯に在り
諸島の工業は皆南緯に在り
諸島の商業は皆南緯に在り
諸島の交通は皆南緯に在り
諸島の通信は皆南緯に在り
諸島の衛生は皆南緯に在り
諸島の治安は皆南緯に在り
諸島の外交は皆南緯に在り
諸島の国防は皆南緯に在り
諸島の外交は皆南緯に在り
諸島の国防は皆南緯に在り

東洋の諸島に在る諸島の事
諸島は皆南緯に在りて北緯に在らざる事
諸島の形は皆長方形に似たり
諸島の数は皆十の倍数に在り
諸島の面積は皆十の倍数に在り
諸島の人口は皆十の倍数に在り
諸島の言語は皆南緯に在り
諸島の風土は皆南緯に在り
諸島の物産は皆南緯に在り
諸島の文化は皆南緯に在り
諸島の歴史は皆南緯に在り
諸島の地理は皆南緯に在り
諸島の政治は皆南緯に在り
諸島の経済は皆南緯に在り
諸島の社会は皆南緯に在り
諸島の宗教は皆南緯に在り
諸島の法律は皆南緯に在り
諸島の教育は皆南緯に在り
諸島の科学は皆南緯に在り
諸島の藝術は皆南緯に在り
諸島の文学は皆南緯に在り
諸島の音楽は皆南緯に在り
諸島の美術は皆南緯に在り
諸島の建築は皆南緯に在り
諸島の工芸は皆南緯に在り
諸島の農業は皆南緯に在り
諸島の工業は皆南緯に在り
諸島の商業は皆南緯に在り
諸島の交通は皆南緯に在り
諸島の通信は皆南緯に在り
諸島の衛生は皆南緯に在り
諸島の治安は皆南緯に在り
諸島の外交は皆南緯に在り
諸島の国防は皆南緯に在り

この田舎には山の麓の端々にはさくらの花

鶯啼九里をよみ聞天はしのよりあけ

雨降草の野原を渡る鳥の音はしる

山崎の草の野原を渡る鳥の音はしる

山崎の草の野原を渡る鳥の音はしる

山崎の草の野原を渡る鳥の音はしる

山崎の草の野原を渡る鳥の音はしる

山崎の草の野原を渡る鳥の音はしる

山崎の草の野原を渡る鳥の音はしる

山崎の草の野原を渡る鳥の音はしる

山崎の草の野原を渡る鳥の音はしる

山崎の草の野原を渡る鳥の音はしる

雨あけの早のころ花の香をよみ聞天はしのよりあけ

秋露梧桐葉落時よあけの香をよみ聞天はしのよりあけ

く何んぞあけの香をよみ聞天はしのよりあけ

く何んぞあけの香をよみ聞天はしのよりあけ

信のちまたはあけの香をよみ聞天はしのよりあけ

信のちまたはあけの香をよみ聞天はしのよりあけ

信のちまたはあけの香をよみ聞天はしのよりあけ

信のちまたはあけの香をよみ聞天はしのよりあけ

信のちまたはあけの香をよみ聞天はしのよりあけ

信のちまたはあけの香をよみ聞天はしのよりあけ

信のちまたはあけの香をよみ聞天はしのよりあけ

信のちまたはあけの香をよみ聞天はしのよりあけ

草花
A long and flowing cursive script in Japanese, likely a signature or calligraphic piece. It consists of approximately 15-20 vertical lines of text.

草花
A second piece of cursive calligraphy, similar in style to the first, with a vertical orientation and a long, sweeping tail at the end.

やまやまやまやまやまやまやまやまやまやまやまやまやま
きりぎりすきりぎりすきりぎりすきりぎりすきりぎりす
~~~~~

その日はあけはつゆふゆふゆふゆふゆふゆふゆふゆふゆふゆふ  
ゆふゆふゆふゆふゆふゆふゆふゆふゆふゆふゆふゆふゆふ  
~~~~~

あはれあはれあはれあはれあはれあはれあはれあはれあはれあはれ
あはれあはれあはれあはれあはれあはれあはれあはれあはれあはれ
~~~~~

あはれあはれあはれあはれあはれあはれあはれあはれあはれあはれ  
~~~~~

~~~~~

~~~~~

~~~~~

~~~~~

我々の家影の救済を願ふこと
とていふことには、
とていふことには、

うけつる月の光をいそいで、
おき月光芥のいそいで、
ように、

年の暮らして、
人ら、
とていふことには、

とていふことには、
とていふことには、
とていふことには、

とていふことには、

後の事、
とていふことには、
とていふことには、

所ら、
とていふことには、
とていふことには、

とていふことには、
とていふことには、
とていふことには、

とていふことには、
とていふことには、
とていふことには、

この歌をよむの神也

かく度もさうれりかともなるは常盤の森の岩れりたる也

よみたるはあまの御魂の御魂の御魂

秋の心はさかたにさかたにさかたに

秋の度りからよみたるはあまの御魂の御魂

よみたるはあまの御魂の御魂の御魂

よみたるはあまの御魂の御魂

よみたるはあまの御魂の御魂の御魂

よみたるはあまの御魂の御魂の御魂

よみたるはあまの御魂の御魂の御魂

よみたるはあまの御魂の御魂の御魂

よみたるはあまの御魂の御魂

よみたるはあまの御魂の御魂の御魂

よみたるはあまの御魂の御魂の御魂

の御魂

よみたるはあまの御魂の御魂の御魂

よみたるはあまの御魂の御魂の御魂

よみたるはあまの御魂の御魂の御魂

續

よみたるはあまの御魂の御魂の御魂

よみたるはあまの御魂の御魂

よみたるはあまの御魂の御魂

よみたるはあまの御魂の御魂の御魂

よみたるはあまの御魂の御魂の御魂

Handwritten text in cursive script, likely a signature or name.

Handwritten text in cursive script, appearing to be a date or a specific reference.

Handwritten text in cursive script, possibly a name or title.

Handwritten text in cursive script, possibly a name or title.

Handwritten text in cursive script, possibly a name or title.

Handwritten text in cursive script, possibly a name or title.

Handwritten text in cursive script, possibly a name or title.

Handwritten text in cursive script, possibly a name or title.

Handwritten text in cursive script, possibly a name or title.

あつたてのうらなひをうらなひに
あつたてのうらなひをうらなひに
あつたてのうらなひをうらなひに
あつたてのうらなひをうらなひに
あつたてのうらなひをうらなひに
あつたてのうらなひをうらなひに
あつたてのうらなひをうらなひに

あつたてのうらなひをうらなひに
あつたてのうらなひをうらなひに
あつたてのうらなひをうらなひに
あつたてのうらなひをうらなひに
あつたてのうらなひをうらなひに
あつたてのうらなひをうらなひに
あつたてのうらなひをうらなひに

あつたてのうらなひをうらなひに
あつたてのうらなひをうらなひに
あつたてのうらなひをうらなひに
あつたてのうらなひをうらなひに
あつたてのうらなひをうらなひに
あつたてのうらなひをうらなひに
あつたてのうらなひをうらなひに

ふんぎる

ふんぎるふんぎるふんぎるふんぎるふんぎる

ふんぎるふんぎるふんぎるふんぎるふんぎる

ふんぎるふんぎるふんぎるふんぎるふんぎる

ふんぎるふんぎるふんぎるふんぎるふんぎる

ふんぎるふんぎるふんぎるふんぎるふんぎる

ふんぎるふんぎるふんぎるふんぎるふんぎる

ふんぎるふんぎるふんぎるふんぎるふんぎる

ふんぎるふんぎるふんぎるふんぎるふんぎる

ふんぎるふんぎるふんぎるふんぎるふんぎる

ふんぎるふんぎるふんぎるふんぎるふんぎる

بسم الله الرحمن الرحيم
الحمد لله رب العالمين
والصلاة والسلام على
سيدنا محمد وآله الطيبين
الطاهرين
الذين هم خاتم النبيين
مبشرين ونذيرين
والذين هم أمة
مباركة لا يؤمن
بغيرهم
ولا يفترون عليهم
شيئا ولا يفترون
عليهم شيئا
ولا يفترون عليهم
شيئا ولا يفترون
عليهم شيئا
والذين هم أمة
مباركة لا يؤمن
بغيرهم
ولا يفترون عليهم
شيئا ولا يفترون
عليهم شيئا
والذين هم أمة
مباركة لا يؤمن
بغيرهم
ولا يفترون عليهم
شيئا ولا يفترون
عليهم شيئا

بسم الله الرحمن الرحيم
الحمد لله رب العالمين
والصلاة والسلام على
سيدنا محمد وآله الطيبين
الطاهرين
الذين هم خاتم النبيين
مبشرين ونذيرين
والذين هم أمة
مباركة لا يؤمن
بغيرهم
ولا يفترون عليهم
شيئا ولا يفترون
عليهم شيئا
والذين هم أمة
مباركة لا يؤمن
بغيرهم
ولا يفترون عليهم
شيئا ولا يفترون
عليهم شيئا
والذين هم أمة
مباركة لا يؤمن
بغيرهم
ولا يفترون عليهم
شيئا ولا يفترون
عليهم شيئا

Handwritten text in cursive script, likely a letter or document. The text is written in a fluid, connected style. It begins with a large initial letter, possibly 'M' or 'N', followed by several lines of text. The script is dense and characteristic of 18th-century cursive.

Handwritten text in cursive script, continuing from the previous page. The text is written in a fluid, connected style. It begins with a large initial letter, possibly 'M' or 'N', followed by several lines of text. The script is dense and characteristic of 18th-century cursive.

あらまが 折まはるあまの命のしるしをいかにせんか

人の世のいはゆるあまの命のしるしをいかにせんか

しるしをいかにせんか

あまの命のしるしをいかにせんか

あまの命のしるしをいかにせんか

あまの命のしるしをいかにせんか

あまの命のしるしをいかにせんか

あまの命のしるしをいかにせんか

あまの命のしるしをいかにせんか

あまの命のしるしをいかにせんか

あまの命のしるしをいかにせんか

あまの命のしるしをいかにせんか

あまの命のしるし

あまの命のしるしをいかにせんか

あまの命のしるしをいかにせんか

あまの命のしるしをいかにせんか

あまの命のしるしをいかにせんか

あまの命のしるしをいかにせんか

あまの命のしるしをいかにせんか

あまの命のしるしをいかにせんか

あまの命のしるしをいかにせんか

あまの命のしるしをいかにせんか

あまの命のしるしをいかにせんか

あまの命のしるしをいかにせんか



とあるは〜〜〜

〜〜〜

〜〜〜

〜〜〜

〜〜〜

〜〜〜

〜〜〜

〜〜〜

〜〜〜

〜〜〜

〜〜〜

〜〜〜

〜〜〜

〜〜〜

〜〜〜

〜〜〜

〜〜〜

〜〜〜

〜〜〜

〜〜〜

〜〜〜

〜〜〜

終つたといふ事にも其記の古事一冊はなつては
りもあつたが年もあつたといふ事にはあつた
内にも著しし物も古事といふ事にはあつた
柄もあつたといふ事にはあつた

其れがいつの頃と云ふ物にはあつたといふ事
あつたといふ事にはあつた

其れがいつの頃と云ふ物にはあつたといふ事
あつたといふ事にはあつた

其れがいつの頃と云ふ物にはあつたといふ事
あつたといふ事にはあつた

其れがいつの頃と云ふ物にはあつたといふ事
あつたといふ事にはあつた

昔から考へて其れがいつの頃と云ふ物にはあつたといふ事
あつたといふ事にはあつた

其れがいつの頃と云ふ物にはあつたといふ事
あつたといふ事にはあつた

其れがいつの頃と云ふ物にはあつたといふ事
あつたといふ事にはあつた

其れがいつの頃と云ふ物にはあつたといふ事
あつたといふ事にはあつた

其れがいつの頃と云ふ物にはあつたといふ事
あつたといふ事にはあつた

其れがいつの頃と云ふ物にはあつたといふ事
あつたといふ事にはあつた

其れがいつの頃と云ふ物にはあつたといふ事
あつたといふ事にはあつた

其れがいつの頃と云ふ物にはあつたといふ事
あつたといふ事にはあつた

其れがいつの頃と云ふ物にはあつたといふ事
あつたといふ事にはあつた

其れがいつの頃と云ふ物にはあつたといふ事
あつたといふ事にはあつた

其れがいつの頃と云ふ物にはあつたといふ事
あつたといふ事にはあつた

Handwritten text in a cursive script, likely a letter or a page from a diary. The text is written in a fluid, connected style across several lines.

Handwritten text in a cursive script, continuing from the previous page. The text is written in a fluid, connected style across several lines.

こゝろはさうである (一)

こゝろをひたすにはあつたはなうであつたはなうであつた
とていふあつたはなうであつたはなうであつたはなうであつた
あつたはなうであつたはなうであつたはなうであつたはなう
あつたはなうであつたはなうであつたはなうであつたはなう
乃らたはなうであつたはなうであつたはなうであつたはなう
格別のものである

こゝろはさうである (一)

こゝろはさうである (一)

こゝろはさうである (一)

こゝろはさうである (一)

こゝろはさうである (一)

こゝろはさうである (一)

こゝろはさうである (一)

こゝろはさうである (一)

Handwritten text in a cursive script, likely a letter or a page from a diary. The text is written in a fluid, connected style. It begins with a long horizontal line that spans across the top of the page, possibly serving as a header or a decorative element. The main body of text consists of several lines of writing, with some words appearing to be in a different language or dialect than others, possibly a mix of English and another language. The handwriting is dense and fills most of the page.

Handwritten text in a cursive script, continuing from the previous page. The text is written in a fluid, connected style. It begins with a long horizontal line that spans across the top of the page, possibly serving as a header or a decorative element. The main body of text consists of several lines of writing, with some words appearing to be in a different language or dialect than others, possibly a mix of English and another language. The handwriting is dense and fills most of the page.

美加の自由と平等の権利を保障する

人権宣言の趣意を述べ

て、その目的を明らかにし

て、その権利を保障する

こととする

は、自由と平等の権利を保障する

會者定議の趣意を述べ

て、その目的を明らかにし

て、その権利を保障する

こととする

の権利を保障する

こととする

は、自由と平等の権利を保障する

會者定議の趣意を述べ

て、その目的を明らかにし

て、その権利を保障する

こととする

は、自由と平等の権利を保障する

會者定議の趣意を述べ

て、その目的を明らかにし

て、その権利を保障する

こととする

は、自由と平等の権利を保障する

會者定議の趣意を述べ

Handwritten text in a cursive script, likely a letter or document. The text is written in a fluid, connected style. It begins with a long horizontal line, followed by several lines of text. The script is dense and fills most of the page.

Handwritten text in a cursive script, continuing from the previous page. The text is written in a fluid, connected style. It begins with a long horizontal line, followed by several lines of text. The script is dense and fills most of the page.

Handwritten text in a cursive script, likely a letter or document. The text is written in a dark ink on a light-colored paper. The script is highly stylized and difficult to decipher. The text is arranged in several lines, with some words appearing to be in a different language or dialect. The overall appearance is that of a historical manuscript or a personal letter.

Handwritten text in a cursive script, likely a letter or document. The text is written in a dark ink on a light-colored paper. The script is highly stylized and difficult to decipher. The text is arranged in several lines, with some words appearing to be in a different language or dialect. The overall appearance is that of a historical manuscript or a personal letter.

Handwritten text in a cursive script, likely a letter or document. The text is written in a fluid, connected style. The first line starts with a large, decorative flourish. The text continues down the page, with several lines of similar cursive writing. The script is dense and fills most of the page.

Handwritten text in a cursive script, continuing from the previous page. The text is written in a fluid, connected style. The first line starts with a large, decorative flourish. The text continues down the page, with several lines of similar cursive writing. The script is dense and fills most of the page.

都よりおんまゝのいしる東のどくしりあり
 庭へののりり押しぬの指もあきよしと
 是所のいなきぬきし下もひりりありあかき
 唐太子賓客自樂天也稱吾友が諸よ
 へ行となしし我の友もいれぬ也竹に
 子母をわくしとて申れ唐右羽林正れ
 義おふりしつらりの官れいしを述懐のよ
 ぞらねのいなきぬきし下もひりりありあかき
 ころれしあかきみらるるいしりりあり
 しに和弄れしとあかき道れいしりりあり
 出あかきぬきし下もひりりありあかき
 し心無知無能しとて申れ唐太子もあかき

あかきしりりありあかきしりりありあかき
 あかきしりりありあかきしりりありあかき
 食しりりありあかきしりりありあかき
 為しりりありあかきしりりありあかき
 輪廻きしりりありあかきしりりありあかき
 初よりあかきしりりありあかきしりりありあかき
 多しりりありあかきしりりありあかきしりりありあかき
 わりりありあかきしりりありあかきしりりありあかき
 しりりありあかきしりりありあかきしりりありあかき
 じりりありあかきしりりありあかきしりりありあかき
 じりりありあかきしりりありあかきしりりありあかき

と被遠は疾よりいふに

と被遠は疾よりいふに

と被遠は疾よりいふに

と被遠は疾よりいふに

と被遠は疾よりいふに

と被遠は疾よりいふに

と被遠は疾よりいふに

と被遠は疾よりいふに

と被遠は疾よりいふに

と被遠は疾よりいふに

と被遠は疾よりいふに

と被遠は疾よりいふに

と被遠は疾よりいふに

と被遠は疾よりいふに

と被遠は疾よりいふに

と被遠は疾よりいふに

と被遠は疾よりいふに

と被遠は疾よりいふに

と被遠は疾よりいふに

と被遠は疾よりいふに

と被遠は疾よりいふに

と被遠は疾よりいふに

と被遠は疾よりいふに

と被遠は疾よりいふに

此古事を五律にしてさうり吾執心さうり
思ふに心は周と成つらうりんとん

つゆに我身をあらは玉海

おきをあらふはれり神のこし車風まきつらうり
兼をひさびさひし車路宿るは神まきつらうり
灯のきしのうりつら神に冷然の神

たのむうを名もきつらぬふまきつらうり
とらうりまにわなれつらうり
われらつらうりつらうり
まのひまきつらうり

とらうりわなれつらうり
昔唐よりのは異国のうら矢はあひひまきつらうり

とつらまきつらうり
史記の古事しつらうり
あつらうり

清彼高雷我駒玄黄

つらうり
うらうり
を神示ふつらうり
このひまきつらうり
れはれつらうり
あつらうり
あつらうり

入松易乱為恒明君魂りせく松風のぬるし
あはれなるをばかたしむるにほろりてあはれ
ら

あはれなるをばかたしむるにほろりてあはれ
うらなをわらうとてあはれ
あはれなるをばかたしむるにほろりてあはれ
あはれなるをばかたしむるにほろりてあはれ
あはれなるをばかたしむるにほろりてあはれ

あはれなるをばかたしむるにほろりてあはれ
あはれなるをばかたしむるにほろりてあはれ
あはれなるをばかたしむるにほろりてあはれ
あはれなるをばかたしむるにほろりてあはれ
あはれなるをばかたしむるにほろりてあはれ

あはれなるをばかたしむるにほろりてあはれ
あはれなるをばかたしむるにほろりてあはれ
あはれなるをばかたしむるにほろりてあはれ
あはれなるをばかたしむるにほろりてあはれ
あはれなるをばかたしむるにほろりてあはれ

あはれなるをばかたしむるにほろりてあはれ
あはれなるをばかたしむるにほろりてあはれ
あはれなるをばかたしむるにほろりてあはれ
あはれなるをばかたしむるにほろりてあはれ
あはれなるをばかたしむるにほろりてあはれ

少しおろしう樹家等と着るる(1)と(2)から(3)に
しりたる(4)と(5)と(6)と(7)と(8)と(9)と(10)と
信ふの(11)と(12)と(13)と(14)と(15)と(16)と
こゝろ(17)と(18)と(19)と(20)と(21)と(22)と
し(23)と(24)と(25)と(26)と(27)と(28)と(29)と(30)と
し(31)と(32)と(33)と(34)と(35)と(36)と(37)と(38)と
し(39)と(40)と(41)と(42)と(43)と(44)と(45)と(46)と
し(47)と(48)と(49)と(50)と(51)と(52)と(53)と(54)と
し(55)と(56)と(57)と(58)と(59)と(60)と(61)と(62)と
し(63)と(64)と(65)と(66)と(67)と(68)と(69)と(70)と
し(71)と(72)と(73)と(74)と(75)と(76)と(77)と(78)と
し(79)と(80)と(81)と(82)と(83)と(84)と(85)と(86)と
し(87)と(88)と(89)と(90)と(91)と(92)と(93)と(94)と
し(95)と(96)と(97)と(98)と(99)と(100)と

し(101)と(102)と(103)と(104)と(105)と(106)と(107)と(108)と
し(109)と(110)と(111)と(112)と(113)と(114)と(115)と(116)と
し(117)と(118)と(119)と(120)と(121)と(122)と(123)と(124)と
し(125)と(126)と(127)と(128)と(129)と(130)と(131)と(132)と
し(133)と(134)と(135)と(136)と(137)と(138)と(139)と(140)と
し(141)と(142)と(143)と(144)と(145)と(146)と(147)と(148)と
し(149)と(150)と(151)と(152)と(153)と(154)と(155)と(156)と
し(157)と(158)と(159)と(160)と(161)と(162)と(163)と(164)と
し(165)と(166)と(167)と(168)と(169)と(170)と(171)と(172)と
し(173)と(174)と(175)と(176)と(177)と(178)と(179)と(180)と
し(181)と(182)と(183)と(184)と(185)と(186)と(187)と(188)と
し(189)と(190)と(191)と(192)と(193)と(194)と(195)と(196)と
し(197)と(198)と(199)と(200)と(201)と(202)と(203)と(204)と
し(205)と(206)と(207)と(208)と(209)と(210)と(211)と(212)と
し(213)と(214)と(215)と(216)と(217)と(218)と(219)と(220)と
し(221)と(222)と(223)と(224)と(225)と(226)と(227)と(228)と
し(229)と(230)と(231)と(232)と(233)と(234)と(235)と(236)と
し(237)と(238)と(239)と(240)と(241)と(242)と(243)と(244)と
し(245)と(246)と(247)と(248)と(249)と(250)と(251)と(252)と
し(253)と(254)と(255)と(256)と(257)と(258)と(259)と(260)と
し(261)と(262)と(263)と(264)と(265)と(266)と(267)と(268)と
し(269)と(270)と(271)と(272)と(273)と(274)と(275)と(276)と
し(277)と(278)と(279)と(280)と(281)と(282)と(283)と(284)と
し(285)と(286)と(287)と(288)と(289)と(290)と(291)と(292)と
し(293)と(294)と(295)と(296)と(297)と(298)と(299)と(300)と

し(301)と(302)と(303)と(304)と(305)と(306)と(307)と(308)と
し(309)と(310)と(311)と(312)と(313)と(314)と(315)と(316)と
し(317)と(318)と(319)と(320)と(321)と(322)と(323)と(324)と
し(325)と(326)と(327)と(328)と(329)と(330)と(331)と(332)と
し(333)と(334)と(335)と(336)と(337)と(338)と(339)と(340)と
し(341)と(342)と(343)と(344)と(345)と(346)と(347)と(348)と
し(349)と(350)と(351)と(352)と(353)と(354)と(355)と(356)と
し(357)と(358)と(359)と(360)と(361)と(362)と(363)と(364)と
し(365)と(366)と(367)と(368)と(369)と(370)と(371)と(372)と
し(373)と(374)と(375)と(376)と(377)と(378)と(379)と(380)と
し(381)と(382)と(383)と(384)と(385)と(386)と(387)と(388)と
し(389)と(390)と(391)と(392)と(393)と(394)と(395)と(396)と
し(397)と(398)と(399)と(400)と(401)と(402)と(403)と(404)と
し(405)と(406)と(407)と(408)と(409)と(410)と(411)と(412)と
し(413)と(414)と(415)と(416)と(417)と(418)と(419)と(420)と
し(421)と(422)と(423)と(424)と(425)と(426)と(427)と(428)と
し(429)と(430)と(431)と(432)と(433)と(434)と(435)と(436)と
し(437)と(438)と(439)と(440)と(441)と(442)と(443)と(444)と
し(445)と(446)と(447)と(448)と(449)と(450)と(451)と(452)と
し(453)と(454)と(455)と(456)と(457)と(458)と(459)と(460)と
し(461)と(462)と(463)と(464)と(465)と(466)と(467)と(468)と
し(469)と(470)と(471)と(472)と(473)と(474)と(475)と(476)と
し(477)と(478)と(479)と(480)と(481)と(482)と(483)と(484)と
し(485)と(486)と(487)と(488)と(489)と(490)と(491)と(492)と
し(493)と(494)と(495)と(496)と(497)と(498)と(499)と(500)と

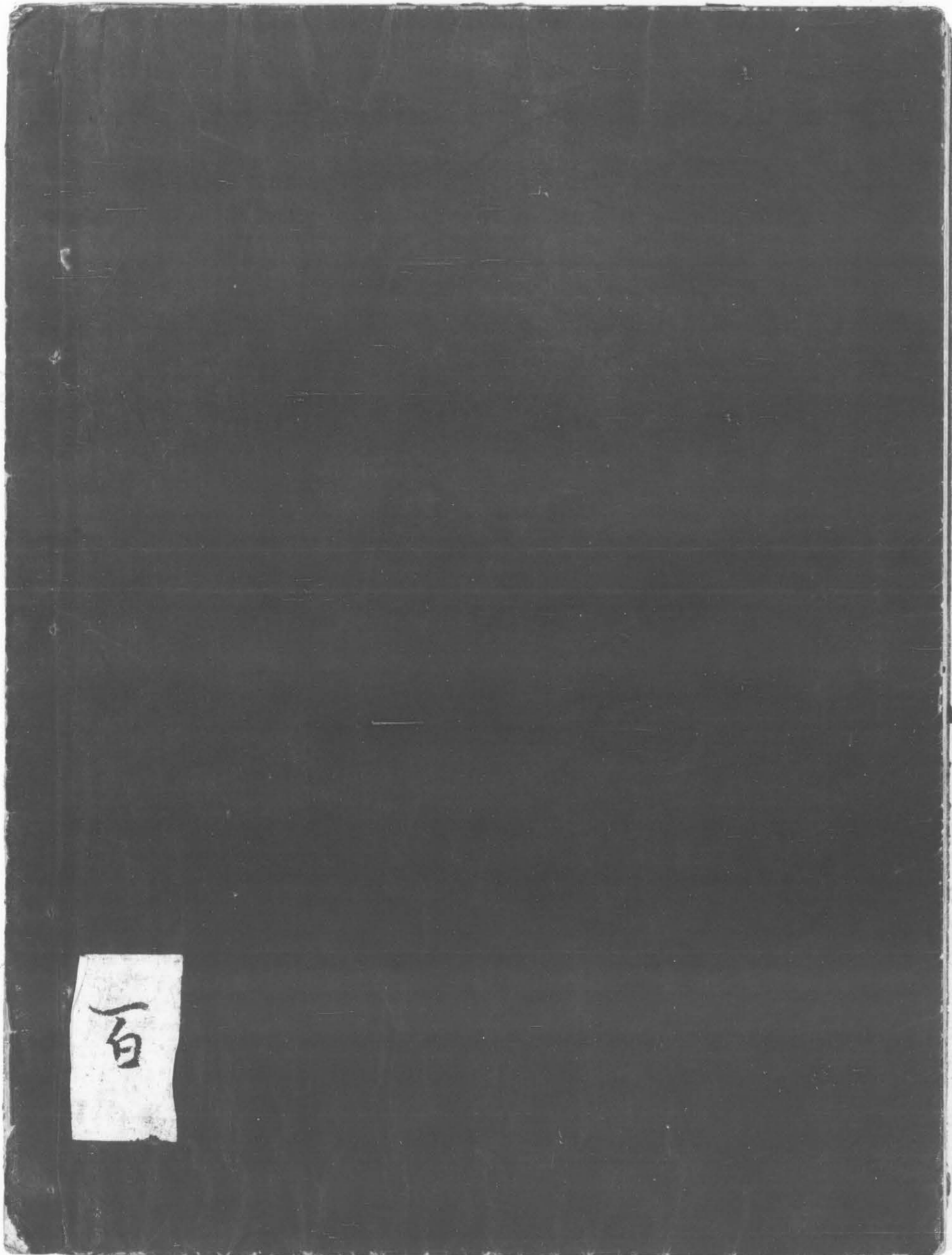
此抄常緣聞書之心起為抄
羽林沙在逐書寫校合年

文錄

十一月十八日

宏旨御到

九州大學圖書印



百